

## 第4章

### 2. 地域の一員としてできること②

副読本  
30～33ページ

年 組 番 氏名

2 地域の人と日頃からさまざまな活動を行うことがなぜ災害時に生かされるのか考えましょう。

3 日頃から地域の一員としてできることを考えてみましょう。

#### ●<sup>つぎだて</sup>築館高校の生徒による、地域で自分たちの役割を再認識する訓練

築館高校は、一人暮らしの高齢者や要配慮者のいる世帯の安否確認を行う情報収集をはじめとした防災訓練を地元地域と連携して行いました。

東日本大震災の教訓では、災害が起こった直後は混乱し、地域の正確な情報を得ることが課題となりました。

そのため、情報伝達・収集訓練を行う班に75名をあて、地域の避難誘導係の方々と協力し、一人暮らしの高齢者や要配慮者のいる世帯の安否確認と本部からの避難などに関する情報を伝えて回りました。

さらに、一人で避難が困難な高齢者には、<sup>いす</sup>車椅子による避難の介助をするなど、地域の方々とともに災害時の避難方法を確認しました。この訓練をとおし、高校生が、災害時に「助ける」立場として貢献できることを再認識しました。

#### ●<sup>にしやま</sup>西山学院高校の生徒による、地域の高齢者宅の雪かき

西山学院高校は、七ヶ宿町に学校があり、生徒は、町内で寮生活をしています。七ヶ宿町は、県内でも有数の雪の多い地域で、毎年雪かきには苦勞しています。

そこで、生徒たちは、地域の一員として、高齢者宅の屋根から落ちた雪の雪かきを行っています。

